

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

分担研究報告書

「不妊に悩む方への特定治療支援事業」のあり方に関する医療政策的研究

### 不妊症の早期検査・治療に関する啓発動画の作成

研究分担者 前田恵理 秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座 准教授

研究分担者 寺田幸弘 秋田大学大学院医学系研究科 産婦人科学講座 教授

研究協力者 齊藤英和 梅ヶ丘産婦人科 ARTセンター長

**研究要旨：**第15回出生動向基本調査によれば、不妊を心配した経験があると回答した夫婦は3組に1組であるが、そのうち検査・治療を受けたことがある者は半数にとどまる。諸外国の先行研究によれば、未受診は治療に対するネガティブなイメージ、病識の欠如、恐怖感、どうしたらいいかわからない、治療費への不安感などと関連しており、こうした心理的障壁を減らし、速やかな受診を促すことができれば、子供を持ちたい夫婦の希望をかなえることにつながる。そこで今年度は、不妊症の早期検査・治療を促す啓発動画「妊活入門アニメ プレニンカツ」を作成し、動画投稿サイトYouTubeにて公開を行った（掲載先：[https://youtu.be/MN0rkIC6B\\_0](https://youtu.be/MN0rkIC6B_0)）。今後は、妊活開始前～不妊検査受診前にある夫婦の動画視聴機会を増やすため、周知を行うとともに、本動画が実際に心理的障壁を軽減し、受診の増加に寄与するか否か検証していく予定である。

#### A.研究目的

第15回出生動向基本調査（夫婦調査）によれば、不妊を心配した経験があると回答した夫婦は3組に1組であるが、そのうち検査・治療を受けたことがある者は半数にとどまる（令和元年度分担研究報告書「社会経済的要因と不妊治療の関連-出生動向基本調査個票情報を用いた解析」参照）。不妊に悩む者の受診割合は、欧州50%程度、豪70%、中国55%、イラン70%とさまざまであるが、受療行動に関する先行研究によれば、若年、低学歴、低収入、有職者、子供あり、婦人科系既往なし等の要因が未受診と関連している。また、子供を持つ重要性の低さ、自然妊娠への希望、治療に対するネガティブなイメージ、不妊であることの病識がない、不妊だとわ

かるのが怖い、どうしたらいいかわからない、治療費への不安感といった心理的要因との関連も指摘されている（Bunting et al., 2007; Moreau et al., 2010; Datta et al., 2016）。

出生動向基本調査では、主観的な不妊の心配のみを尋ねており、不妊症の有病率調査としては不正確であるが、わが国においても不妊に悩む夫婦の一部は受診していない、もしくは受診に遅れが生じている可能性がある。諸外国の先行研究で示唆される受診要因のうち、治療に対するネガティブなイメージ、病識の欠如、恐怖感、どうしたらいいかわからない、治療費への不安感といった要因については、啓発を通じて低減することが可能であり、行動変容を通じて夫婦の希望を実現できる可能性もある。

特に治療費への不安感については、初期の検査の多くが既に保険適用されており、平成29年度時点でも37の都道府県・政令市・中核市が不妊検査や一般不妊治療の自己負担分の一部助成を行っているため（平成30年度分担研究報告書「全国115実施主体における「不妊に悩む方への特定治療支援事業」実施状況の調査」参照）、自己負担額を低く抑えられる地域も増えている。

不妊治療では治療年齢が若いほど妊娠率・生産率が高いため、心理的障壁を減らし、速やかな受診を促すことは、子供を持ちたい夫婦の希望をかなえることにつながる。今年度は、昨年度までの研究結果を踏まえて、不妊症の早期検査・治療を促す啓発動画を作成した。

## B. 研究方法

2020年11月～2021年3月に香取徹氏（THE DIRECTORS FARM）に委託してアニメーション動画の作成を行った。妊娠についてまだ積極的に考えていない若者も対象とすることから、最後まで見てもらえるストーリー展開と親しみやすいキャラクター設定を行った。

治療に対するネガティブなイメージ、病識の欠如、恐怖感、どうしたらいいかわからない、治療費への不安感を払拭するため、不妊に関する基礎知識（有病率、定義）、早期受診の利点（年齢と妊娠率の関係）、初期検査の内容（超音波検査、血液検査、精液検査等）、治療費（健康保険の適用、検査助成のある自治体）、受診先について内容に含めた。

不妊に関する基礎知識、早期受診の利

点、初期検査の内容、受診先の情報については日本生殖医学会ウェブサイトを参照し作成した。

治療費については、都内にある診療所で治療費について聴取調査を行った。初診時の自己負担額は血液検査、感染症検査、超音波検査、精液検査により、妻は6000円～10000円、夫は1000円～2000円程度であった。AMH検査の実施日は5000円～10000円程度、フーナー検査実施日や排卵モニター実施日は2500円程度、子宮卵管造影の日は10000円程度であったため、動画においては「3～5回の通院が必要であり、1回あたり数千円～1万円程度である」とした。

セリフやアニメーションについては、制作の各段階で、本研究班の研究分担者・研究協力者および数名の一般の関係者（不妊治療経験者を含む）から意見を募り、確認・修正作業を行った。動画制作スタッフは以下の通りである。

赤ちゃんの声：荻沼栄音
ママの声：石塚みづき
パパの声：谷内龍平
キャスティング協力：橋本昭博 (Moratorium Pants)
アニメーション：吉次峻平(peachstudio)
音楽：若狭真司(羊音製作所)
効果・MA：内田雅巳
監督・イラスト・P：香取徹(THE DIRECTORS FARM)
企画・CD：籠島康治

(倫理面への配慮)

倫理面で特記すべき事項はない。

### C. 研究結果

2021年3月17日に「妊活入門アニメ プレニンカツ」(図1)が完成し、動画投稿サイトYouTubeにて公開している。特定不妊治療費助成事業を担当する都道府県・政令市・中核市の担当者へメールで周知す

るとともに4月14日に秋田大学よりプレスリリース(資料)を行った。

掲載先：[https://youtu.be/MN0rkIC6B\\_0](https://youtu.be/MN0rkIC6B_0)

動画分数：2分5秒

掲載開始期日：2021年4月1日



図1 妊活入門アニメ プレニンカツ (一部抜粋)

#### D. 考察

今年度は不妊症の早期検査・治療を促すアニメーション動画「妊活入門アニメ プレニンカツ」を作成した。動画はYouTubeにて公開中であり、妊活開始前～不妊検査の受診前の若い夫婦が視聴する機会を増やすため、関係者への周知を行っている。本動画が実際に、心理的障壁を軽減し、受診の増加に寄与しうるか、今後は介入研究を通じて検証する予定である。

2003年の厚生労働科学研究による全国調査(山縣班)によれば、わが国の不妊治療患者は466,900人と推計されているが、当時の生殖補助医療実施件数は10万件程度と現在の1/4であった。その後、晩産化は一層進行し、特定不妊治療費助成事業が導入される等状況は大きく変化した。2003年以降は全国的な疫学調査は行われていない。生殖補助医療については日本産科婦人科学会の生殖データベースを通じて、概ね正確な情報が常時収集されているが、潜在的な不妊患者(未受診者)、不妊検査・一般不妊治療の患者を含めた不妊症全体については全体像が知られていないのが現状である。不妊に悩む夫婦へ適切な支援を行うには、全体像を把握したうえで、受診の障壁

について経済的・社会的・心理的観点から詳細に調査していくことも必要である。

#### E. 結論

不妊症の早期検査・治療を促す啓発動画「妊活入門アニメ プレニンカツ」を作成し、動画投稿サイト YouTube にて公開を行った。今後は、妊活開始前～不妊検査受診前にある夫婦の動画視聴機会を増やすため、周知を行っていく。

#### 謝辞

本動画の制作や広報にあたって様々なご助言・ご協力をいただきました、佐藤高輝様(NPO 法人フォレシア)、明石陽子様(秋田県産業労働部地域産業振興課)、有明順様・武藤貴臣様(あきた企業活性化センター)、秋田県産業労働部地域産業振興課の皆様にご心より御礼申し上げます。

#### G. 研究発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

なし